

0-2-3

宿主－寄生体双方向に作用する当帰六黄湯と高齢者易感染対策— ）宿主に対する作用

Host-parasite bidirectional effect for immune-compromised host, -Host effect.

○ 内川久美子¹⁾，松葉慎太郎²⁾，佐久真正弘²⁾，清水 昌寿²⁾，山口 宣夫^{1) 2)}

1) 財団法人 石川天然薬効物質研究センター，2) 金沢医科大学医学部代替基礎医学

A decline in the immunopotential of the host plays an essential role in the occurrence of infections with methicillin-resistant *Staphylococcus aureus* (MRSA) or *Pseudomonas*. In the present study, mitomycinC(MMC) -treated mice with or without the infection of MRSA were used to examine the bacteriostatic and antiinflammatory action as well as the immunopotentiating action of the promising Chinese herbal medicine, Tohki-Rikuoh-Toh(TRT). TRT was also administered to the patients infected with MRSA. Both basic and clinical data showed the drug to be effective in the treatment of MRSA infection.

【目的】

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA) 等による感染症は宿主の免疫力低下が一因と指摘されている。また新規抗生剤の適用はさらなる耐性の誘導につながり，根本的対策とは成り難い。そこで抗菌作用及び免疫賦活作用の双方向が期待される漢方方剤，当帰六黄湯 (TRT) を選択した。この漢方方剤による感染症治療の可能性を，別件の発表と併せて基礎的及び臨床的に検討を行った。

【方法および結果】

<基礎的検討> マウスにマイトマイシン C (MMC) を投与し，骨髓抑制状態を誘導して免疫力低下モデルとした。この宿主に TRT エキス末 500mg/kg/day を経口投与することによって，有核細胞数の回復・食細胞の貪食能・殺菌能等の機能的正常化を認めた。Flow cytometry により白血球サブセットの分布率を調べると，特に顆粒球の著減が正常化された。MMC 処理宿主に TRT を投与した群では MRSA 接種後，肝内・血中の MRSA 生存菌数は対照群に比べて少数となった。このような治療群において MRSA 感染後の生存率は有意に高まった。また治療を受けた供与マウスの食細胞とリンパ球を分離して MMC 処理後の受容マウスに受身移入すると前者の受容者は高い生存率を示し，前者が作用細胞である事が示唆された。

<臨床的検討> 78～91 才の高齢者で咽頭・褥創・尿路のいずれの部位からか排菌陽性の患者に TRT 5.25g/day を経口投与し，臨床所見・血液像及び生化学的検査結果を経過観察した。投与開始後，最も早い例では 2 週間後に MRSA の排菌が陰性となった。尿路カテーテルなど異物挿入例では若干陰転化は遅れたが全例陰転化した。また全身状態の指標ともなる血清総蛋白値，アルブミン値の回復も認められ，治療効果等，予後を判定できる指標として提案したい。

【結論】

TRT は免疫能力低下時における宿主有核細胞の貪食能，殺菌能の正常化を促し，MRSA 感染症の治療に応用できる可能性が示された。